

とてまかにきこえんと心づよくおぼしめしつれど、まことになりぬるをりはいかになりぬる事ぞとさすがに御心さはがせ給ひぬ、むかひ聞えさせ給ひては方々におくせられ給ひにけりどや、たゞきのふのおなじさまに中々事ずくなにおほせらるゝ御をりは、さりともいかにかくはおぼしめしよりぬるぞなぞやうに申させ給ひけんかしな、御けしきの心ぐるしさをかつは見たてまつらせ給ひて、すこしをしのこはせ給ひて、さらばけふよき日なりとて、院になしたてまつらせ給ひて、やがて事どもはじめさせ給ふ日よろづの事さだめおこなはせ給ふ、判官代には宮づかさども藏人などかはるべきにあらず、別當には中宮の權大夫をなしたてまつり給へれば、おはしてはいし申させ給ふ事どもさたよりはてぬればいでさせ給ひぬ、いとあはれに侍りける事は、殿のまださふらはせ給ひける時、母宮の御かたより何方の道よりたづねまゐりたるにか、あらはに御覽するも、まらぬけしきにて、いとあやしげなるすがたしたる女房の、わなゝくゝいかにかくはせさせ給へるぞと、こゑもかはりて申つるなん、あはれにも又をかしうもどこそおほせられけれ略○中ひたき屋、ぢん屋などどりやられけるほどにこそえたえずし、びねなく人々侍りけれ、まして皇后宮ほり川の女御殿などは、さばかり心ふかくおはしませふ御心どもに、いかばかりおぼしめしけんとおぼえ侍りし略○中さていかなる事にか東宮御位せめおろしとりたてまつり給ひては、又御むこにとりたてまつらせ給ふほどもてかしづきたてまつらせ給ふ御ありさま、まことに御心もなぐさませ給ふばかりこそきこえ侍りしか、おもひまゐらするをりは、大ばんどころにおはしまして、御だいやばんなどまで手づからのこはせ給ふ、なにをもめしこゝろみつゝ、なんまゐらせ給ひける、御ざうしぐちまでもておはしまして、女房にたまはせ、殿上にいだす程にもたちそひてよかるべきさまにをしへなぞ、これこそは御はるよとあはれにぞ、○又見榮花物語